

□主な内容

【第 10 回 EST 交通環境大賞の結果を公表！】

EST 普及推進委員会は、第 9 回 EST 交通環境大賞の各賞を決定しました。5 月 13 日に開催される第 12 回 EST 普及推進フォーラムにおいて授賞団体を表彰します。

http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2018_02.html

【エコモ財団より募集を開始しています！】

- 2019 年度エコドライブ活動コンクール(5/7～募集開始)

http://www.estfukyu.jp/pdf/EST_mailmagazine_vol.153_2.pdf

- 小学校におけるモビリティ・マネジメント教育の自治体支援(募集中)

http://www.mm-education.jp/jititai_sien.html

目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 153 回)

- 「環境的に持続可能な公共交通は誰が創る」

【札幌大学地域共創学群地域創生専攻 教授 小山 茂】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 153 回)

- 「公共交通の持続的な提供に向けた取組み」

【豊中市都市基盤部交通政策課 播磨 大輔】

3. ニュース／トピック

- 平成 30 年度実証調査が全国初のグリーンスローモビリティ本格事業化につながりました

【国土交通省】

- バスの遅延情報や位置情報等リアルタイム情報の標準フォーマットを定めました【国土交通省】

- 「自動車燃費一覧」と燃費の良い乗用車ベスト 10 を発表【国土交通省】

- 日本初！鉄道とタクシーを組み合わせた貨客混載が始まりました！ ～佐川急便と JR 北海道(宗谷線)による宅配貨物輸送の効率化～【国土交通省】

- MaaS 等の新たなモビリティサービスの地域モデル構築を支援！ ～新モビリティサービス推進事業の公募をしています～【国土交通省】

- 第 10 回 EST 交通環境大賞の結果について【EST 普及推進委員会、エコモ財団】

- エコドライブ活動コンクールの募集のご案内【エコモ財団】

- 小学校におけるモビリティ・マネジメント教育の支援自治体の募集について【エコモ財団】

- 物流分野における CO₂削減対策促進事業の公募開始【LEVO】
- 燃料電池を搭載した電動小型低速車両の実証について【ヤマハ発動機】
- 「MONET コンソーシアム」を設立 ～モビリティイノベーションの実現に向けた『なかまづくり』の一環として企業間の連携を推進～【MONET Technologies】
- 2019年5月より、新モバイルチケットの提供を開始 ～企画切符や高速バス切符等の機能をスマホで完結できる新たな MaaS サービス～【ジョルダン】
- QRコード決済サービス『LINE Pay』の導入について【関東自動車】
- 日本初の再生可能エネルギー100%による世田谷線の運行を開始【東急電鉄、東北電力、東急パワーサプライ】
- 世界全体の自動車の燃費改善は鈍化していると報告【国際エネルギー機関】
- フィンランド発の MaaS アプリ「Whim」の導入効果に関する報告書「WHIMPACT」を公表【デンマーク・Ramboll 社】

4. イベント情報

- 第12回 EST 普及推進フォーラム ～パリ協定に向けた持続可能な交通システム～【2019/5/13】
- レールバスとあそぼう 2019【2019/5/4-5】
- オープンシンポジウム「海外への都市開発分野の展開と産学官の連携可能性 —SDGsの実現に向けて」【2019/5/14】
- 都市計画法 50年・100年記念シンポジウム(第2弾) 都市計画の領域と新展開 —新たなフレームワークの構築に向けて—【2019/5/31】
- エコライフ・フェア 2019【2019/6/1-2】
- 九都県市エコドライブ講習会(エコトレーニング)【2019/6/10,17,23,24】
- 第14回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)【2019/7/19-20】
- 第26回 ITS 世界会議シンガポール 2019【2019/10/21-25】
- 第17回 ITS シンポジウム 2019【2019/12/12-13】
- 第17回アジア太平洋地域 ITS フォーラムブリスベン 2020【2020/5/25-28】

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 153 回)

●「環境的に持続可能な公共交通は誰が創る」

【札幌大学地域共創学群地域創生専攻 教授 小山 茂】

ある市の「地域公共交通検討委員会」の委員長、その上部組織である「地域公共交通会議」の副会長をしている。

地域公共交通会議の評価対象事業「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金」の評価結果を見ると、事業実施の適切性では評価がすべて“A”となる。これは計画通り実施された結果である。しかし、目標・効果達成の状況では評価が“C”(“A”評価も含んでいる)となる。この評価に着目すると、結果的に目標値を達成することができなければ“C”となり、利用者の努力は報われない。

委員会の参加者は国土交通省、北海道、交通事業者、町内会連合会、そして市民公募の人々である。委員からはもう少し評価を考えて“B”でも良いのではないかと質問が出る。

ある委員は、運転免許証を自主返納し、移動手段は公共交通しかなく、公共交通の運行時間に合わせて生活習慣を変更する努力をしている。また、ある委員は筆者の意見に耳を傾け、普段は自動車で移動しているのにもかかわらず、公共交通の計画変更を体験し、地域の方に伝えている。

また、現在調整中(令和元年5月中旬から下旬)であるが、委員が他市の公共交通の現地視察も行う予定であり、「地域の環境に合わせた公共交通体系の模索」が市民を中心に展開される予定である。

東京大学入学式祝辞の上野千鶴子名誉教授の言葉を引用すると「すでにある知を身につけることではなく、これまで誰も見たことのない知を生み出すための知を身に付ける」との言葉に、人口減少社会で、どう生きてゆくのか。『これまで誰も見たことのない知を生み出す』ための行動が令和元年に実施される。各地の人口減少問題を生きる人間の「知が生み出される」ことを期待する。この努力が「明るく、元気で、楽しんで」暮らせるまちづくりを創ることに結びつくことを願う。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 153 回)

●「公共交通の持続的な提供に向けた取組み」

【豊中市都市基盤部交通政策課 播磨 大輔】

豊中市は、大阪市の北西側、兵庫県との県境に位置し、市域面積約 36km²、人口約 40 万人の中核市です。

当市は、大阪国際空港(伊丹空港)、高速道路・幹線道路などの広域交通網、南北方向に 2 路線、東西方向に 1 路線、合計 13 駅の鉄道路線網や、比較的高低差のある市域北部を中心にバス路線網が充実しており、交通利便性の高いまちとの評価をいただいております。

しかしながら、市域には、鉄道駅やバス停から距離がある地域も存在すること、都市構造上東西方向の結びつきが脆弱で、その流動が少ないことなどの課題もあります。また、将来的には、バス路線網が充実している地域においても人口減少と共に利用者が減少し、路線の縮小が懸念されること、自動車に頼って生活をしている地域においては、高齢化により、その運転が困難となり、新たな移動手段が求められることなどが想定されます。

このような状況を踏まえ、本市の公共交通の改善の考え方と施策実施方針をまとめた「豊中市公共交通改善計画」を今年2月に任意計画として策定しました。

本計画においては「マイカーに頼らなくても移動できる交通体系の整備」を基本理念として、様々な実施施策を盛り込み、公共交通ネットワークの充実や、バリアフリー化の推進等のハード施策と、モビリティ・マネジメント等のソフト施策の両面から取組みを進める予定としております。

具体的には、今年の秋から、交通不便地域において高齢者等の買物・通院等の日常利用を想定した乗合タクシーを導入する予定です。また、既存の公共交通網を補完する環境にやさしい交通手段として、シェアサイクルの実証実験や、結びつきの脆弱な東西方向を繋ぐバス路線の導入等も予定しており、環境や都市構造の面からも持続可能な公共交通網の構築に向けて取り組んでまいります。

3. ニュース／トピック

●平成 30 年度実証調査が全国初のグリーンスローモビリティ本格事業化につながりました【国土交通省】

地域が抱える様々な交通の課題の解決と、地域での低炭素型モビリティの導入を同時に進められる「グリーンスローモビリティ(※)」の地域での活用に向け、5つの地域で実施された平成 30 年度実証調査結果が公表されました。

また、実証調査を実施した広島県福山市鞆の浦では、住民の 7 割が導入を希望した等の結果を踏まえて、4 月からアサヒタクシー株式会社がグリーンスローモビリティによる本格事業が開始されました。グリーンスローモビリティによる本格事業開始は全国初です。

※グリーンスローモビリティ…時速 20km 未満で公道を走ることが可能な 4 人乗り以上の電動車両

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000180.html

●バスの遅延情報や位置情報等リアルタイム情報の標準フォーマットを定めました【国土交通省】

バスの遅延情報や位置情報等リアルタイム情報を、より多くのバス事業者が利用者に情報提供するために、国土交通省は標準フォーマットを定めました。

バスの運行は道路混雑状況等により日常的に遅延が発生することが多いため、バス利用者にとってバスロケーションによる動的情報は極めて重要な情報ですが、全国的に十分に普及しているとは言えません。また、既に情報提供している場合でも、その方法についてはバス事業者が作成しているホームページや自社アプリケーションに限定されていることが多く、複数事業者が運行している路線などでは利用者にとって使いにくい状況です。

そのため、『GTFS リアルタイム』を動的データの標準的なフォーマットとして定めました。これにより、動的情報についても経路検索事業者をはじめ、多様な主体が活用しやすくなり、公共交通の活性化につながることを期待されます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000140.html

●「自動車燃費一覧」と燃費の良い乗用車ベスト 10 を発表【国土交通省】

国土交通省では、自動車ユーザーの省エネルギーへの関心を高め、燃費性能の優れた自動車の開発・普及を促進するため、毎年、自動車の燃費性能を評価した「自動車燃費一覧」を公表するとともに、燃費の良い乗用車を発表しています。

平成 30 年末時点で販売されている乗用車のうち、最も燃費の良い乗用車は、普通・小型自動車ではプリウス(トヨタ自動車株式会社)、軽自動車ではアルト(スズキ株式会社)及びキャロル(マツダ株式会社)となりました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000210.html

●日本初！鉄道とタクシーを組み合わせた貨客混載が始まりました！～佐川急便とJR北海道(宗谷線)による宅配貨物輸送の効率化～【国土交通省】

国土交通省は、佐川急便株式会社と北海道旅客鉄道株式会社が実施する、貨客混載の総合効率化計画を認定しました。

認定された計画は、佐川急便稚内営業所から幌延町の各配達先への宅配貨物の一部を、宗谷線「稚内駅」において旅客列車に積み込んで「幌延駅」まで輸送し、幌延町の各配達先へはタクシーを活用して物流の効率化(貨客混載)を図るもので、4月18日(木)から運行が開始されています。鉄道とタクシーという複数の旅客輸送モードを組み合わせた貨客混載事業は初めてとなります。

これにより、佐川急便としてはトラックからのCO₂排出量の削減、ドライバーの運転時間の削減が図られ、JR北海道としても列車の有効活用による新たな収入の確保が期待されます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/20190416_SGW_JRH.html

●MaaS等の新たなモビリティサービスの地域モデル構築を支援！～新モビリティサービス推進事業の公募をしています～【国土交通省】

国土交通省は、全国各地のMaaS等新たなモビリティサービスの実証実験を支援し、地域の交通課題解決に向けたモデル構築を推進するため、「新モビリティサービス推進事業」を公募します。公募の締め切り日は5月29日です。

選定された事業に対し、実証実験への支援をするとともに、経済産業省との共同事業であるスマートモビリティチャレンジをはじめ、各種支援策との連携をすることで、重点的な支援が行われます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000142.html

●第10回EST交通環境大賞の結果について【EST普及推進委員会、エコモ財団】

EST普及推進委員会は、「第10回EST交通環境大賞」(主催:EST普及推進委員会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団、後援:国土交通省、警察庁、環境省、一般社団法人日本自動車工業会、公益社団法人日本バス協会、一般社団法人日本民営鉄道協会)の各賞を決定し、公表しました。

http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2018_02.html

授賞団体は、5月13日に開催される第12回EST普及推進フォーラムで表彰します。

<http://www.estfukyu.jp/forum12.html>

●エコドライブ活動コンクールの募集のご案内【エコモ財団】

エコモ財団では、今年度も「エコドライブ活動コンクール」の参加者を募集します。優れた取組を行っている事業者を表彰し、その取組内容を紹介することによりエコドライブの更なる普

及を目指しています。最も優れた取組の事業者には、国土交通大臣賞(事業部門)、環境大臣賞(一般部門)が授与される予定です。

http://www.estfukyu.jp/pdf/EST_mailmagazine_vol.153_2.pdf

●小学校におけるモビリティ・マネジメント教育の支援自治体の募集について【エコモ財団】

エコモ財団では、環境問題について学び始める小学生を対象にしたモビリティ・マネジメント教育に取り組む地方公共団体に対して、ノウハウの提供や資金面での支援を行い、継続的に実施するための拠点づくりを行なっています。現在、2019年度からの支援自治体を募集しています。

http://www.mm-education.jp/jititai_sien.html

●物流分野におけるCO₂削減対策促進事業の公募開始【LEVO】

一般財団法人環境優良車普及機構(LEVO)では、環境省から交付を受け、物流分野の低炭素化を促進するため、エネルギー起源二酸化炭素の排出を抑制するための設備や技術等を導入する事業に対する補助金を交付する事業を実施しています。モーダルシフトの促進事業や情報の共有化による低炭素な輸送・荷役システム構築事業など7の事業が補助金の対象となります。事業の公募の期間は、4月12日(金)から5月14日(火)までです。

<http://www.levo.or.jp/fukyu/butsuryu/index19.html>

●燃料電池を搭載した電動小型低速車両の実証について【ヤマハ発動機】

ヤマハ発動機株式会社は、燃料電池を搭載したプロトタイプ車両「YG-M FC」による公道実証を、4月18日から4月24日まで石川県輪島市にて行いました。

燃料電池を搭載したこのプロトタイプ車両は、同サイズの電動小型低速車に対して1)航続距離が長い、2)燃料充填時間が短い点が特長で、充電回数の低減や保有台数の低減を図ることができます。

なお「YG-M FC」は、5月22日から開催される「人とするまのテクノロジー展 2019 横浜」に出品予定です。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/news/2019/0405/yg-mfc.html>

●「MONET コンソーシアム」を設立 ～モビリティイノベーションの実現に向けた『なかまづくり』の一環として企業間の連携を推進～【MONET Technologies】

ソフトバンク株式会社とトヨタ自動車株式会社の共同出資会社である MONET Technologies 株式会社(モネ・テクノロジーズ、以下「MONET」)は、モビリティイノベーションの実現に向けた『なかまづくり』の一環として、企業間の連携を推進する「MONET コンソーシアム」を設立しました。

「MONET コンソーシアム」は、多様な業界・業種の企業(サービス事業者)に参加していただき、自動運転を見据えた MaaS(Mobility as a Service)事業開発などの活動を行うことで、

次世代モビリティサービスの推進と、移動における社会課題の解決や新たな価値創造を目指します。MONETは、本コンソーシアムの運営主体として、各活動を推進していきます。

https://www.monet-technologies.com/news/press/2019/20190328_01/

●2019年5月より、新モバイルチケットの提供を開始 ～企画切符や高速バス切符等の機能をスマホで完結できる新たな MaaS サービス～【ジョルダン】

乗換案内サービスのジョルダン株式会社は、全国の自治体や観光施設、交通事業者を対象に、2019年5月より、新モバイルチケットの提供を開始します。

新モバイルチケットは、全国の自治体や観光施設、交通事業者等を対象に提供するもので、交通による移動に加え、観光や買い物、飲食などの企画切符や高速バス切符の機能をスマートフォンで完結することができます。また、自治体や交通事業者が提供するサービスを利用する生活者は、スマートフォン上でチケットの購入、乗車までをシームレスに行うことが可能になります。また、多言語対応をしているため、今後、さらなる増加が期待される外国人観光客にも利用が可能です。

https://www.jorudan.co.jp/company/data/press/2019/20190326_justside.html

●QRコード決済サービス『LINE Pay』の導入について【関東自動車】

宇都宮市を中心に路線バスなどを運営する関東自動車株式会社が、3月28日(木)より宇都宮駅前チケットセンターにてQRコード決済サービス『LINE Pay』の利用が可能になりました。『LINE Pay』で購入できる券種は、定期券や高速バス乗車券、観光一日乗車券などです。

<https://www.kantobus.co.jp/topics/topics.php?id=470#topicpath>

●日本初の再生可能エネルギー100%による世田谷線の運行を開始【東急電鉄、東北電力、東急パワーサプライ】

東京急行電鉄株式会社は、東北電力株式会社、株式会社東急パワーサプライの協力により、水力および地熱のみで発電した再生可能エネルギー100%による世田谷線の運行を3月25日から開始しました。

この取り組みは、都市型鉄軌道線における、日本初の再生可能エネルギー100%の電力による通年・全列車の運行となります。従来、1年間で東京ドーム約0.5個分の1,263tのCO₂を排出していた世田谷線を「日本初の二酸化炭素排出量ゼロの都市型通勤電車」として運行します。

http://www.tohoku-epco.co.jp/news/normal/1200627_1049.html

●世界全体の自動車の燃費改善は鈍化していると報告【国際エネルギー機関】

国際エネルギー機関(IEA)は、グローバル燃費イニシアティブ(GFEI)が自動車の燃費改善状況を検証した報告書を報じました。

報告書によると、過去 12 年間に世界全体で燃費が年平均 1.7%改善したものの、2015～2017 年は改善率が鈍化しました。先進国では改善が、年平均わずか 0.2%で、27 力国で横這い、もしくは悪化しました。原因として、スポーツ用多目的車とピックアップトラックの市場シェア拡大を挙げています。一方で、新興国(中国、インド、インドネシア等)では、2015～2017 年の燃費改善率が 2.3%と高くなっています。

GFEI は、パリ協定や持続可能な開発の目標達成には自動車の燃費改善が欠かせないとし、2030 年までに燃料効率を 2 倍にするという目標を設定しました。目標達成には今後、年平均 3.7%の燃費改善が必要となり、規制や購入奨励措置が重要な役割を果たすことを示しました。

<https://www.iea.org/newsroom/news/2019/march/more-efforts-needed-to-accelerate-improvements-in-fuel-economy.html>

●フィンランド発の MaaS アプリ「Whim」の導入効果に関する報告書「WHIMPACT」を公表【デンマーク・Ramboll 社】

デンマークのコンサルタント会社 Ramboll 社は、MaaS Global 社から「Whim」本格展開後のデータ提供を受け、そのインパクトを評価した報告書「WHIMPACT」を 3 月 28 日に公表しました。

この報告書は、2017 年 11 月の本格開始当初の混乱を除いた 2018 年 1～12 月の 1 年間のデータに基づくもので、黎明期とはいえ、同社が開始当初から掲げてきた「マイカーから公共交通への転換」に対する実際の交通行動に注目が集まる中で発表されました。報告書によると、Whim ユーザーの利用開始前後の比較ではないことに注意が必要ではあるものの、外出時に「公共交通」を使う回数が全体に占める割合は、ヘルシンキ市民一般が 47.6%であるのに対して Whim ユーザーは 73.1%である一方、「徒歩・自転車」は市民一般の 43.6%に対して Whim ユーザーは 20.4%でした。「自動車」は市民一般の 7.3%に対して Whim ユーザーは 3.4%であり、Whim ユーザーは都心エリアに多く、もともと公共交通が整備されているため、むしろ徒歩・自転車が公共交通に置き替わったと推察しています。

また、Whim ユーザーは 30 代と 50 代が多く、66 歳以上も 8%を占めることや、朝ピーク時の Whim トリップのうち 68%が公共交通アクセシビリティの高いエリアから発生していることから、公共交通沿いに Whim が発展してきたことも示されました。公共交通手段の端末交通手段としてタクシーを組み合わせたトリップの割合は市民一般の 3 倍であり、公共交通の駅や停留所からのファースト・ラストマイルの課題解決にタクシーや自転車が重要と結論づけています。

https://ramboll.com/-/media/files/rfi/publications/Ramboll_whimpact-2019

4. イベント情報

●第12回 EST 普及推進フォーラム ～パリ協定に向けた持続可能な交通システム～

日時:2019年5月13日(月)13:30～17:00

場所:ルポール麴町2階「ロイヤルクリスタル」

主催:EST 普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/forum12.html>

●レールバスとあそぼう2019

日時:2019年5月4日(土)～5日(日)

場所:旧南部縦貫鉄道七戸駅

主催:七戸町、(一社)南部縦貫レールバス愛好会

https://www.apinet.jp/Detail_display_00007632.html

●オープンシンポジウム「海外への都市開発分野の展開と産学官の連携可能性 —SDGsの実現に向けて」

日時:2019年5月14日(火)13:00～17:00

場所:日本工営株式会社九段オフィス 大会議室(中庭棟4階)

主催:(公社)日本都市計画学会 海外の都市開発分野における産学官の連携のための交流分科会

<http://www.cpij.or.jp/com/50+100/1st20181117.html>

●都市計画法50年・100年記念シンポジウム(第2弾) 都市計画の領域と新展開 —新たなフレームワークの構築に向けて—

日時:2019年5月31日(金)12:30～15:10

場所:東京大学(弥生講堂)

主催:(公社)日本都市計画学会

<http://www.cpij.or.jp/com/50+100/1st20181117.html>

●エコライフ・フェア2019

日時:2019年6月1日(土)～2日(日)

場所:都立代々木公園

主催:環境省

<http://ecolifefair.env.go.jp/>

●九都県市エコドライブ講習会(エコトレーニング)

日時・場所:2019年6月10日(月) 東京会場:尾久自動車学校

2019年6月17日(月) 埼玉会場:セイコーモータースクール

2019年6月23日(日) 千葉会場:千葉県自動車練習所

2019年6月24日(月) 神奈川会場:日吉自動車学校

主催:(一社)日本自動車連盟 九都県市(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0504/eco-drive/documents/20190617ecodrive.pdf>

●第14回日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)

日時:2019年7月19日(金)~20日(土)

場所:石川県金沢市 石川県立音楽堂

主催:(一社)日本モビリティ・マネジメント会議

<https://www.jcomm.or.jp/convention/>

●第26回 ITS 世界会議シンガポール 2019

日時:2019年10月21日(月)~25日(金)

場所:Suntec Singapore Convention and Exhibition Centre

主催:Land Transport Authority, ITS Singapore

http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_100/singapore_2019/

●第17回 ITS シンポジウム 2019

日時:2019年12月12日(木)~13日(金)

場所:石川県地場産業振興センター

主催:金沢大学 (特非)ITS Japan

http://www.its-jp.org/event/its_symposium/17th2019/

●第17回アジア太平洋地域 ITS フォーラムブリスベン 2020

日時:2020年5月25日(月)~28日(木)

場所:Brisbane Convention & Exhibition Centre QUEENSLAND

主催:ITS Australia

http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_110/katsudou2014tabid_110katsudou2014tabid_110ap_forum17/

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/nev_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<http://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<http://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomoto.or.jp (担当: 中道)

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>